

# 日本地球電気磁気学会会報(第9号)

1963年11月30日

## 日本地球電気磁気学会

事務所：東京都文京区本生町3

東京大学理学部地球物理学教室内

電話(812)2111 内線6476

振替東京4860番

### 第34回講演会および総会経過報告

先に皆様にプログラムをお配り致しました通りの日程にて、第34回講演会および総会は盛会裡に終了致しました。講演申込数が88という最多記録に達し、これら多数の講演を僅か3日間の日程にて行い得ましたことは、会の進行について空電研究所の方々が予め御配慮下さったこと、ならびに講演者各位が要領よく御講演して下さった賜であります。講演予稿集は、予想以上の売れ行きで、残品が全くなり、後からお求めになりたい方々にお分けできなくなりましたことを御承願いたします。

以下第34回総会の様子を記してみます。総会は出席者95名、委任状提出32通で、新規約による運営が行われるようになってから始めて正式に成立した総会でした。

庶務報告 いろいろと報告致すべきことは多かつたのですが、時間節約のため次の事項だけ報告致しました。

1. 日本地球電気磁気学会会報は今後とも内容を充実させて発行することに努めます。たとえば会員の皆様が関心を持たれるような内外の学会情報・会議情報などを適当に掲載したり、会報に附して配布したりする。このために会員各位から情報を適宜提供していただきたいと思いますので御協力をお願い致します。
2. 学術会議地球物理学研究連絡委員会では今秋委員改選を行うことになっており、本学会宛に電磁気分科委員候補10名を推薦するよう依頼がありました。運営委員会では、評議員会に本件を審議していただくよう依頼しその結果、

前田恵一、永田 武、加藤慶雄、田村雄一、太田柱次郎、関戸宗太郎、

(2)

金原 淳、上田弘之、吉松隆三郎、力武常次、

各会員計10名を新委員候補として推薦することになりました。

3. 別刷交換会は春季学会終了時に10名の新加入希望者を加え、34名にて運営しています。その後加入希望を申し出られた会員もおりますので、今学会終了直後に昭和38年度規程加入申込を締切ります。(別刷交換会に関する案内書を御希望の方は学会事務局までお申し下さい。)

新入会員紹介 昭和38年度春季学会総会以降秋季学会当日までに新しく会員になられた方々の氏名を御紹介しました。その方々は会報第8号で既に御紹介しました方々と、最近入会されました次の方々(敬称略)とであります。

田 鍋 浩 義 (東京天文台)

北 一 麻 呂 (京大工、電離層研)

VAUGHN AGY (京大工、電子工学、NBS, Boulder, U.S.A.)

学会規約及び内規改正 運営委員会の提案により、本学会規約改正案が上程され、総会で可決されました。下記の条文のうち下線を施したところが追加になった部分であります。

第9条、委員長、評議員、運営委員は内規に定めるところに従って正会員の互選によって決める。ただし委員長は無投票で次期評議員となる。この規約改正に伴い、内規も変更になります。内規変更で譲承されたところをまとめて記しますと次の通りです。文中で下線を施したところが訂正あるいは追加された箇所です。

第1条 役員 の 選 挙 は 次 の 通 り と す る 。

一、委員長の選出は単記無記名投票とし、他の役員 の 選 挙 に 先 立 っ て 行 う 。

二、評議員の選出は5名連記無記名投票とし、運営委員の選出は10名無記名投票とする。ただし同一人を異なる役員に重複して記載しても差しつかえない。

なおこの選挙に先立ち運営委員会の議をへて、現運営委員の中若干名は当選した場合留任を辞退することが出来る。これらの氏名は予め全会員に通知する。

次に示す第4条は新条文ですので、全文下線を施すべきですが下線は省略させていただきます。

第4条 会費納入および未納会員の取扱いについて

一、会費の納入は原則として各年度の第1四半期(4~6月)に全額納入

すべきものとする。

二、未納会費納入勧告を送付したにもかかわらず会費を2年連続滞納した場合には、期限をつけた最終的会費納入勧告を送り、その期限内に会費納入または納入の意志表示がなければ退会を希望するものとみなす。

三、一度退会した会員は新たに入会申込手続きをとれば再入会しうる。

田中館賞 今回の総会で授与された田中館賞は

第32号 等松隆夫 夜光変化の動力学的研究

で、授賞式後、委員長から審査経過報告がありました。

委員長挨拶 恒例の委員長挨拶において、前田委員長は特に次のことを強調されました。学会誌発行と学会講演会が学会活動の二本柱である。会員の方々が学会講演をされるに当っては、諸先輩方の心のこもった注意を受け、また建設的意見を得るのが目的であるから、そのような気構えで著演されることを特に希望いたします。

名誉委員長祝辞 長谷川名誉委員長は近年における学会の隆盛を祝福され、今後一層の発展を願うと挨拶されました。

謝辞 宮崎評議員が参会者一同を代表して、第34回総会および講演会を開催するに当って尽力された全原所長以下名古屋空電研職員の方々に厚く謝辞を述べられました。

次回総会及び講演会開催時期及び場所 昭和39年春に東京で開催されますが日取りや世話担当機関は未定です。

懇親会 11月5日夕刻蒲郡市三谷温泉「松風閣」大広間において大勢の会員の方々の参加を得て盛大に行われました。当日は午後まで曇天でありましたが、夕刻雲が切れ、三河湾に沈む夕日の荘厳を眺めることができましたのは幸いです。

空電研究所見学 11月7日希望者多数が空電研を見学させていただきました。

第34回総会および講演会関係の記事を終るに当りまして、今回の総会講演会、懇親会の準備から、宿舎乗換、会場へのバスの配車、見学の御案内に至りますまで一切のお世話を十二分に致していただきました名古屋大学空電研究所全原所長以下全職員の方々に、あらためて会員の皆様方と共に厚くお礼申し上げたいと存じます。

学会事務所からの御知らせ。

昭和38年度分会費をお払込になりました方々には、この会報にそえて

(4)

JGG誌第15巻2号をお届け致しております。もし昭和38年度分会費を御納入になられたにもかかわらず今送に第15巻1号2号の雑誌が届いておりません場合にはその旨御申出下さい。

昭和38年度分会費をまだお払込みになっておられない方々は振替などの方法により会費お払込みがあり次第、当事務所にお預りしてあります雑誌を早速お届け致します。

Journal of Geomagnetism and Geoelectricity 誌編集印刷

進行状況 第34回総会席上にて、大林主任編集委員から報告がありました。現在JGG誌第15巻3号は印刷中であり、4号は今夏Berkeleyで開かれた地球内部電磁現象シンポジウム特別号として編集が進められております。いま第16巻1号の原稿を締切ろうとしています。このようにJGG誌出版が進行していますので、今まで遅れ気味であった会誌発行は間もなく予定通りのペースに戻りうると思いますが、春秋の学会の折には毎度日程に盛り切れない程の議決申請がありますのに、論文として書き上げられるものの数がそれに比しては少いということは私達が十分に反省しなければなりません。会員各位が積極的に投稿されることを功に期待しております。投稿原稿は、JGG誌編集主任

京都市左京区吉田本町

京都大学工学部電磁層研究観測所

大 林 辰 辰

あてに御送り下さい。出版に際しては、ページチャージは原則として各投稿者からは徴集しません。別刷は一律に1部あたり印刷紙面1頁について4円(たとえば8頁の論文100部ならば3200円)でお買上げいただくことになっております。

畑中武夫会員が去る11月10日逝去されました。畑中会員は本学会創立以来の会員で、本学会設立に協力され、また会誌編集委員としても尽力されました。11月12日に本御公会堂で行なわれました告別式に際しては、本学会からは手紙を御靈前に捧げましたことを御報告いたします。